

PAWEES の活動とこれから Activities of PAWEES and Its Prospect

○松野 裕*・中村公人**

Yutaka MATSUNO・Kimihiro NAKAMURA*

1. PAWEES の経緯

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES)は 2003 年の設立以来、農業農村工学会、韓国農業工学会、台湾農業工学会の支援のもと、水田稲作農業を核とした水環境分野における科学・技術振興を主にアジアにおいて推し進めてきた。PAWEES が母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE)は、2009 年にインパクトファクター (IF) の付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録された。PAWEES 会長は3カ国が2年ごとに持ち回り、現在は台湾の Chien-Hsin LAI (賴建信: 台湾経済水利部署) 氏が会長となっている。次期会長は 2021 年に日本から選出される。PAWEES 事務局は農業農村工学会内に 2011 年以降固定されている。

PWE 誌の刊行以外に、PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会の開催期間中に、PAWEES 国際賞、PWE 論文賞、PWE レビューア賞の授与式が開催されている。国際研究集会は毎年1回、韓国農業工学会、台湾農業工学会、農業農村工学会が持ち回りで主催者となっている。農業農村工学会が主催する年は意識的に日本以外で開催してきたが、各国の要望もあり 2018 年は久しぶりに日本で開催された (表1参照)。

2. 2019 年の活動

2018 年の研究集会は、国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) との共同開催とし、「PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良 2018」として、奈良県の全面協力のもと、11月20日(火)から22日(木)にかけて、奈良県で開催された。会議では、21の国・地域、4つの国際機関の研究者、政策立案者、エンジニア、民間部門を含む総数 552 名 (国内参加者: 332 名、海外参加者: 220 名) が、過去最大規模の集会となった。

2019 年研究集会も合同会議(2019 SEOUL INWEPF & PAWEES International

*近畿大学農学部: School of Agriculture, Kindai University

**京都大学大学院農学研究科: Graduate School of Agriculture, Kyoto University

キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

Conference)として、11月5日(火)～7日(木)の期間に韓国ソウル市(INTERCONTINENTAL SEOUL COEX)にて開催された。今回の共同テーマは、「New, Green, and Smart Paradigm of Agricultural Water」とし、参加者総数は235名で、PAWEES側160名,INWEPF側75名であった。

表1 過去の PAWEES 研究集会開催国と都市

年	国	都市	年	国	都市
2003	日本	京都	2011	台湾	台北
2004	韓国	安山	2012	タイ	ノンタブリ
2005	日本	京都	2013	韓国	晋州
2005	台湾	台北	2014	台湾	高雄
2006	日本	宇都宮	2015	マレーシア	クアラルンプール
2007	韓国	ソウル	2016	韓国	太田
2008	台湾	台北	2017	台湾	台中
2009	インドネシア	ボゴール	2018	日本	奈良
2010	韓国	済州	2019	韓国	ソウル

3. 今後の展開

2020年の研究集会は台湾で開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響で1年延期となった。よって日本が担当する研究集会は2022年に開催される。日本担当の研究集会は、現在海外を含む数カ所が候補に挙がっており今後検討を重ねていく。

近年のINWEPFとの連携を挙げるまでもなく、PAWEESはその対象とする学術分野での成果を研究者間だけではなく、技術者や行政に向けて広く共有していく行動計画を策定することが近年求められてきている。大学や研究機関の研究者のみならず今後はメンバー国の行政機関や国際機関、NGOなどとの実体のある連携をより一層推進していく必要があるだろう。

昨年からPWEの購読料が引き下げられた一方、アジア地域、さらにはグローバル規模でPAWEESの活動の場を広げていくに不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまとっている。学術ジャーナルの電子化が積極的に展開されている状況において、購読者や論文購読者数の増加はロイヤルティ収入増加に直結するので、今後もPWEの積極的な宣伝および知名度向上に努める必要があるだろう。当面は、PAWEES発足20周年を節目とし、PAWEESとPWEのさらなる発展を目指していきたい。